

授 業 科 目 名	子どもの家庭支援論	教 員 名	木村 匡登	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN402	配当年次	3年後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又は事項等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	子育て家庭を取り巻く関係基盤が希薄になった現在、その支援機能を果たすことが園や保育教諭に求められるようになった。そこで、子ども家庭支援の現状、課題を踏まえ、子ども家庭支援の専門性を獲得する。					
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 					
授 業 の 概 要	現在の子育て家庭支援の現状と課題、ニーズに応じた多様な支援の展開について理解を深め、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、そして子ども家庭支援の具体的な支援のあり方を学ぶ。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） 子ども家庭支援の意義と役割Ⅰ（目標1） ・子ども家庭支援の意義と必要性</p> <p>第2回：子ども家庭支援の意義と役割Ⅱ（目標1） ・子ども家庭支援の目的と機能</p> <p>第3回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅰ（目標2） ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義</p> <p>第4回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅱ（目標2） ・子どもの育ちの喜びの共有</p> <p>第5回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅲ（目標2） ・保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援</p> <p>第6回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅳ（目標2） ・保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）</p> <p>第7回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅴ（目標2） ・家庭の状況に応じた支援</p> <p>第8回：保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅵ（目標2） ・地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力</p> <p>第9回：子育て家庭に対する支援の体制（目標3） ・子育て家庭の福祉を図るための社会資源 ・子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</p> <p>第10回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ（目標4） ・子ども家庭支援の内容と対象</p>					

	<p>第11回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等を利用する子どもの家庭への支援 <p>第12回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て家庭への支援 <p>第13回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童等及びその家庭に対する支援 <p>第14回：多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅴ（目標4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども家庭支援に関する現状と課題 <p>第15回：全体のまとめ</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>レポート提出20%、発表20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。 ・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テキスト	<p>新基本保育シリーズ⑤「子ども家庭支援論」中央法規</p>
参考書・参考資料等	<p>文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年告示）』</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針（平成29年告示）』</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』</p>
担当者からのメッセージ	<p>自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。</p>
オフィスアワー	<p>メール等でアポイントを取ることを。</p>